

## 事後評価結果（平成18年度）

担当課：北陸地方整備局道路部道路計画課

担当課長名：信太 啓貴

事業名	一般国道17号 湯沢交差点改良	事業区分	一般国道
起終点	自：新潟県南魚沼郡湯沢町神立 至：同上	事業主体	国土交通省 北陸地方整備局
		延長	1.1 km

### 事業概要

一般国道17号は、東京都中央区から新潟県新潟市に至る延長約350kmの主要幹線道路である。  
湯沢交差点改良事業は、湯沢IC交差点の改良と、その前後約1.1km区間の4車線拡幅事業であり、平成13年度までに供用している。

### 事業の目的・必要性

一般国道17号の湯沢IC交差点周辺では、冬期（特に休日）にスキー客等による交通量増大から著しい交通渋滞が慢性化し、地域交通や広域交通に支障を来していた。

湯沢交差点改良は、交通混雑の緩和、高速道路ネットワークへのアクセス強化を目的とし、このような問題点を解消して、地域における生活・経済を支える幹線道路機能を確保するものである。

### 事業概要図



事業の効果等	事業期間	事業化年度	H2年度	用地着手	H6年度	供用年	(当初) - / H14年度 (実績) - / H13年度	変動	0.9倍	
	事業費	都市計画決定	S40年度	工事着手	H8年度	(暫定/完成)	(暫定/完成)	変動	1.1倍	
	交通量 (当該路線)	計画時 (暫定/完成)	(名目値) - / 70億円 (実質値) - / 67億円	実績 (暫定/完成)	(名目値) - / 80億円 (実質値) - / 77億円	計画時 (暫定/完成)	- / 12,600台/日	実績 (暫定/完成)	- / 14,600台/日	変動
旅行速度向上		6.6 → 42.0 km/h		交通事故減少		32 → 39件/億台キロ				
費用便益分析結果 (当初)		B/C: 2.4		総費用: 79億円 (事業費: 74億円, 維持管理費: 5億円)		総便益: 191億円 (走行時間短縮便益: 184億円, 走行経費減少便益: 5億円, 交通事故減少便益: 2億円)		基準年: H12年		
費用便益分析結果 (事後)		B/C: 1.8		総費用: 110億円 (事業費: 103億円, 維持管理費: 8億円)		総便益: 193億円 (走行時間短縮便益: 185億円, 走行経費減少便益: 7億円, 交通事故減少便益: 2億円)		基準年: H18年		
事業遅延によるコスト増		費用増加額: 一億円		便益減少額: 一億円						

	<p>事業遅延の理由</p> <hr/> <p>客観的評価指標に対応する事後評価項目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●現道の年間渋滞損失時間および削減率 年間渋滞損失時間削減量：4.9万人時間、削減率：83%減</li> <li>●現道等における混雑時旅行速度が20km/h未満であった区間の旅行速度の改善状況 (冬期休日) 整備前6.6km/h → 整備後42.0km/h</li> <li>●現道等における総重量25tの車両が通行できない区間が解消 戸沢橋は当該事業により、25t車両の通行可能になり、物流ネットワークが強化</li> <li>●日常活動圏の中心都市へのアクセス向上の状況 買物などで湯沢町が依存する南魚沼市六日町地区への所要時間が短縮 (冬期休日) 湯沢町～南魚沼市六日町地区：整備前26.8分→整備後17.6分 (約9分短縮)</li> <li>●主要な観光地へのアクセス向上による効果 湯沢町を含む魚沼地域の主要観光であるスキー場への所要時間が短縮 (冬期休日) 石打丸山スキー場～湯沢IC：整備前43.6分 (H11年) → 整備後6.9分 (H17年) 約37分短縮 (冬期休日) 苗場スキー場～湯沢IC：整備前29.7分 (H11年) → 整備後25.1分 (H17年) 約5分短縮</li> <li>●三次医療施設へのアクセス向上の状況 三次医療施設である長岡赤十字病院への所要時間が短縮 (冬期休日) 湯沢町～長岡赤十字病院：整備前82.6分→整備後73.4分 (約9分短縮)</li> </ul> <p style="text-align: right;">他7項目について効果の発現が見られる。</p> <hr/> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
事業による環境変化	<p>環境影響評価に対応する項目</p> <p>当該事業は、環境影響評価対象外事業である。</p> <hr/> <p>その他評価すべきと判断した項目</p> <p>特になし</p>
事業を巡る社会経済情勢等の変化	<p>湯沢町スキー客は減少傾向 (事業化当時 741万人/年 (H2年) → 431万人/年 (H15年))</p> <p>※但し、2月上旬連休などのスキー客ピーク日における交通量は通常の2倍以上と依然として多い状況。</p>
今後の事後評価の必要性及び改善措置の必要性	<p>事業の目的である「冬期における渋滞緩和」については、旅行速度が大幅に向上するなど効果は発現しており、今後の事後評価及び改善措置の必要性はない。今後は、交通状況を勘案しつつ、必要に応じて効果の発現状況等のフォローアップを実施。</p>
計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性	<p>現段階においては、事業の効果が発現されており、特段の見直しの必要性はない。</p>
特記事項	<p>特になし</p>

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。